



医療法人社団 優愛会

おの耳鼻咽喉科



医師募集概要

RECRUIT
INFORMATION
FOR DOCTOR

当院の診療方針

丁寧な「説明」と「診療」

患者さんご自身に、どんな治療を行っているかを理解していただき、納得して治療を受けていただけるようにします。

見て分かる診療

「耳」「鼻」「のど」の中は見えにくい部分ですが、スコープを通して出来るだけ患部をお見せし、患者さんの病気への理解が深まるように努めます。

薬の処方だけでなく処置・治療経過も大切にする

病気に対して必要な薬を出すだけでなく、より早く病気を治すための処置を行います。

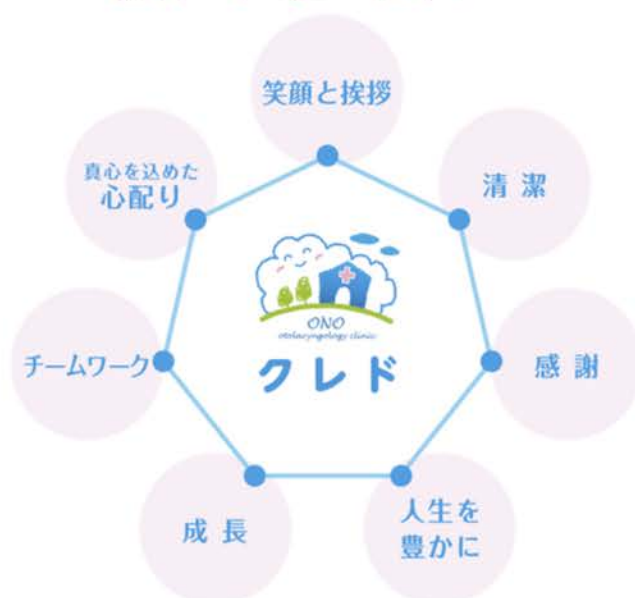
また治療の経過を大切にし、治療が適切か判断します。



おの耳鼻咽喉科が大事にしていること

経営理念

常に患者さんの心に寄り添い、
お一人おひとりの笑顔のために
最善の医療を提供する



1.笑顔と挨拶

患者さんや仲間を幸せにするために、元気になる挨拶をします。
クリニックの顔であることを自覚し、笑顔と言葉を大切にします。

2.真心を込めた心配り

患者さんや仲間には自分にとって最愛である家族のように接します。
相手の立場になり、想いを察することで安全・快適・満足・便利なお一人おひとりに応じたサービスを提供します。

3.清潔

クリニックの環境や身嗜みは私たちの心を映し出します。
安心安全な医療を提供するために、働きやすく清潔な環境を維持します。

4.チームワーク

最善の医療を実現するために、チームの絆を強めます。
互いに信頼し、助け合い、仲間からのアドバイスも素直に受け止める心を育みます。

5.感謝

地域や周囲の皆さんに支えられている事に感謝し言葉や行動で恩返しをします。
仲間と一緒に健康で元気に働ける事に感謝します。

6.成長

患者さん・仲間・私達みんなの人生が輝くために、共に学ぶ姿勢を大切にし、挑戦・前進し続けます。私達が成長することが自分と自分を取り巻く全ての人の幸せに直結します。

7.人生を豊かに

地域や患者さんに寄り添う医療機関としてありがとう！が溢れ、働きやすい職場として『おの耳鼻咽喉科』に関わる全ての方の夢や目標を応援します！！

法人概要

施設概要



名 称 : 医療法人社団優愛会 おの耳鼻咽喉科
住 所 : 〒436-0086 静岡県掛川市宮脇 2 丁目 1 1 - 8
開 設 : 2014年10月
理 事 長 : 小野 智裕
院 長 : 小野 智裕

病床種別 : 無床クリニック

診療科目 : 耳鼻咽喉科

アクセス : 電車の場合 : JR東海道新幹線・JR東海道本線「掛川」から車で8分
: 車の場合 : 東名高速道路「掛川インターチェンジ」出口より車で7分

カルテ : 電子カルテ

施設HP : <https://www.onojibi.jp/>

【検査・治療機器】

- ・ 頭部レントゲン
- ・ ファイバースコープ
- ・ 聴力検査
- ・ 耳鳴検査
- ・ ティンパノグラム
- ・ 重心動揺計
- ・ 鼻腔通気度測定
- ・ 血算CRP院内採血
- ・ レーザーによる鼻粘膜焼灼
- ・ 舌下免疫療法
- ・ 呼気NO検査
- ・ SAS簡易検査 / C-PAP治療

【感染症簡易検査】

- ・ インフルエンザ
- ・ RSウイルス
- ・ アデノウィルス
- ・ 溶連菌感染症
- ・ コロナウィルス
- ・ マイコプラズマウィルス
- ・ ヒトメタニューモウィルス

【アレルギー検査】

- ・ View39
- ・ RAST
- ・ イムノキャップラピッド
- ・ Drop Screen



アクセス



アクセス／宮脇インター南側 掛川警察署北へ500M



施設説明

【検査・治療機器】



ネブライザー



X線撮影装置



聴力検査



聴力検査



重心動揺検査（めまいの検査）

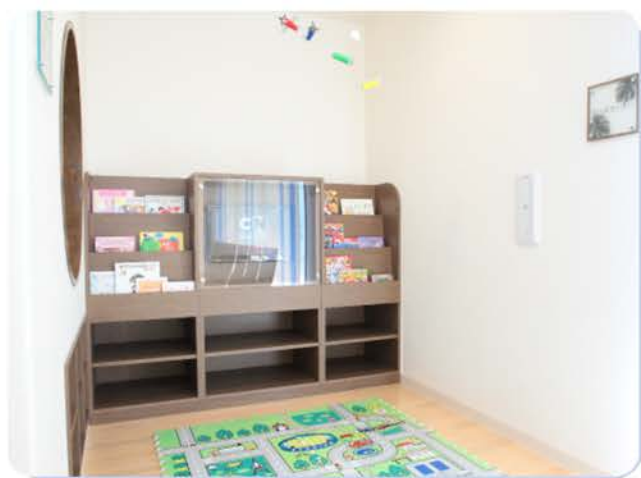


レーザー治療器

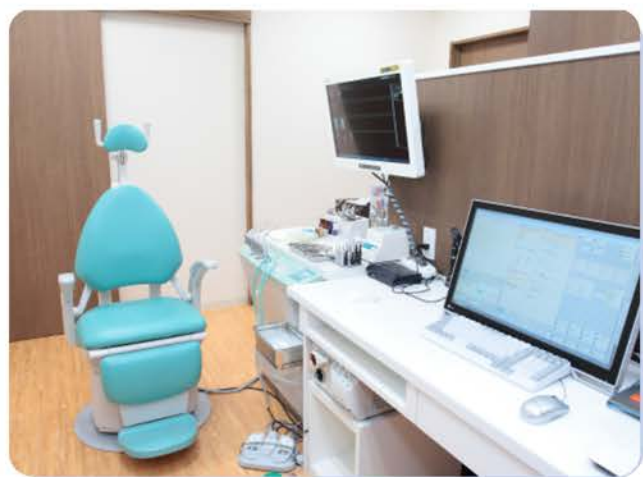
【院内紹介】



受付



キッズコーナー



診察室



診察室



点滴室



処置室

院長メッセージ

おの耳鼻咽喉科



この街、この地域に、笑顔と幸せが広がるように

私は掛川市横須賀で生まれ、この地域の人々や文化から多くの影響を受けて育ちました。中学生の頃、地元の大変なお兄さんの存在を病気で亡くした経験をきっかけに「身近な人の命と健康を守る仕事がしたい」と医師を志すようになりました。

大学で基礎医学と臨床医学を学んだ後、昭和大学藤が丘病院に勤務しながら、大学院で薬理学を専攻。舌がんとアレルギーに関する研究に携わりました。

舌がん研究では、がん細胞の転移メカニズムについて細胞レベルで解析し、転移を抑制する薬や成分を研究。マクロ的視点とミクロ的視点の両面から病態を捉え、新たな視点で物事を見る方法を身につけ、エビデンスに基づく根拠ある医療の重要性を学びました。

卒業後は、公立昭和病院、横浜労災病院など複数の中核病院で勤務し、がんや先天性疾患の手術を数多く経験。特に小児の口唇口蓋裂治療では、家族の不安に寄り添いながら、患児が健やかに成長できるようサポートする喜びを味わいました。

これらの経験から、医療は専門的な知識と技能だけでなく、人間性や思いやりの心が欠かせないことを痛感しました。そして、一人ひとりの人生に寄り添う医療を実践したいと願うようになりました。

医師になって気づいたことがあります。それは、医師の役割は単に「病気を治す」だけでなく、患者さん一人ひとりの人生をサポートすることが大切な仕事であるということです。病状の改善はもちろん大切ですが、私は患者さんの望む人生の実現に寄り添い、幸せになってもらうことこそが重要な医師の仕事だと考えています。

残念ながら、すべての病気が完治するわけではありません。そんな時こそ、その方の日常生活をサポートし、不安や苦痛に寄り添う存在でありたい。「この病院に来てよかった」「これからもこの病院で診てもらいたい」そう思っただけの医療を提供することを目指しています。

一人ひとりの人生に寄り添う医療

子どもの頃、私は身体が弱く、地元の開業医の先生に頻繁に診てもらっていました。風邪をひいても、怪我をしても、いつでも相談に乗ってくれる存在でした。

こうした経験から、身近で相談しやすい病院が、地域には必要不可欠だと確信しています。

地域医療という仕事は、人生をかけるに値するやりがいのある仕事です。私もまだ道半ばですが、今後も地域の人たちの健康を支え、心の拠り所となれるよう、日々研鑽を重ねて参ります。

この街、この地域に、笑顔と幸せの輪が広がるようにこれからも、同じ想いを共有してくれる仲間と一緒に、患者さん一人ひとりの人生を全力でサポートしていきたいと願っています。



院長 小野 智裕

医学博士

日本耳鼻咽喉科学会専門医
厚労省認定補聴器適合判定医
身体障害者福祉法第15条指定医
日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医
日本耳鼻咽喉科学会認定騒音性難聴担当医
日本禁煙学会認定指導医

当院で研修した先生のインタビュー

ー 入職のきっかけを教えてください

開業を心から応援してくれる、院長の人柄に惹かれました。

開業を決意した時、まず考えたのは、さまざまなクリニックで経験を積み、良いところを吸収することでした。Webで、通勤圏内で医師募集中の人気クリニックを探し「おの耳鼻咽喉科」を見つけました。

初めて訪れたときに「ここだ!」と直感しました。土曜日の午前中だけでも200人ぐらいの患者さんが来院されているにもかかわらず、医師2人でスムーズに回せるほどシステム化されていたのです。イキイキと働くスタッフの動きの良さにも目を見張りました。

応募書類に「開業を目指している」と書いたので、敬遠されるのではないかと懸念していました。ところが小野院長からは「独立を考えてステップアップしようとしている人が、うちを参考にしてくれるのは、むしろ嬉しいです」と、温かい言葉が返ってきました。

小野先生は、開業に必要な準備から、運営の心がまえやノウハウまで、どんな質問にも丁寧に答えてくださいました。本音で意見を言ってくれる裏表のない人柄と、開業を心から応援してくれる懐の深さに、強く惹かれました。「おの耳鼻咽喉科」との出会いは偶然でしたが、最高のモデルが見つかった私は、他のクリニックを探すのはやめて、開業するまでここで働くことを選択しました。

当時から、多くの医師が「小野先生のもとで学びたい」と希望していたので、私は大学病院の仕事と並行して、土曜日に月1〜2回勤務し、3年目に独立開業を果たしました。十分な報酬を設定してくださっていたので、それに応えるべく、全力で仕事に臨みました。同時に、小野先生から、独立開業に必要なことを、できる限り吸収しようと精一杯学びました。

ー おの耳鼻咽喉科で働く魅力を教えてください

1日約500人の患者さんを診るスピード感を、実際に体験できます

医師2人で、1日で最大500人も患者さんを診るスピード感は、実際に体験してみないと絶対にわかりません。当時、午前中に30人診療したら「今日は多かった」と感じる環境に身を置いていた私にとって、想像をはるかに超える達成感と充実感でした。

花粉症シーズンに、小野先生と9時から5時まで、無駄なく、やるべきことに細心の注意と集中力を維持しながら診療を続けた経験が、今の私を支えています。

開業したクリニックでも、花粉のピーク時には多くの患者さんが訪れますが「もっといけるぞ!」と自信を持って対応できるのも、この時の経験があるからです。

「来院数の多さ」と「患者満足度の高さ」を両立しているのがすごいところです

数ある耳鼻咽喉科の中でも、Googleマップでの「おの耳鼻」の評価の高さは際立っています。この高い評価は、医師だけの努力によるものではありません。患者さんの評価には、受付や看護スタッフの対応も、大きく影響するからです。

スタッフ全員が、それぞれの持ち場で患者さんのニーズを汲んで対応し、医師が診察する。クリニックに着いてから帰るまでのプロセスの全てが、患者さんの満足度に影響しているのです。

医師とスタッフ一人ひとりの改善意欲やチーム力を高めるための研修を積極的に行ったり、常日頃から共に努力し、組織全体で改善に取り組むことが「来院患者数の増加」と「患者満足度の向上」を両立させる秘訣だと、身をもって学びました。「おの耳鼻」を真似すれば「患者さんが来なくて困ることは絶対はない」と確信しました。自分のクリニックのスタッフにも「患者さんの評価は皆でつくっていくものだよ」と、いつも伝えています。

医師とスタッフが本音で話し合える関係性が魅力です

医師とスタッフの距離感の近さ、本音で話し合える関係性に魅力を感じ、真似したいと思いました。大学の医局にいた時、いくつかクリニックでアルバイトをしたことがあります。多くのクリニックでは、昔ながらのトップダウンの関係性のままで、看護師は医師の指示を待つのみ、という感じがうかがえました。おそらく医師の指示が絶対ルールであり、看護師やスタッフは、意見を言いつらい雰囲気が残っていたと思います。それに対して「おの耳鼻」は自立型のクリニックと言えるでしょう。看護師やスタッフは医師の指示に頼ることなく積極的に動き、クリニックを主体的に動かしています。

クリニックを訪ねた初日から、スタッフの優秀さに驚かされました。医師が診療中にカルテを書かなくても、補助についてくれるスタッフが瞬時にカルテ作成をしてくれて「院長はこういう薬を出します」という情報も提示されていたのです。

「おの耳鼻」の非常勤医師は、さまざまな医療機関から来ているので、それぞれ流儀が違います。医局が違っていると、耳から診るとか、鼻から診るとか、診察の順番も違います。そうした違いに対応すべく、スタッフは医師ごとのマニュアルを作っています。誰が補助に入っても、各医師に応じた的確なサポートをしてくれるのです。私のことも理解して、さまざまな面でフォローしてくれていたと思います。

そして、誰もが発言・提案できて、それが業務の改善に反映されます。この風通しの良い環境が、スタッフのやりがいやクリニックの活気につながり、1日に最大500人ものお客さんを診られる土台をつくっていると感じました。小野先生はもちろんのこと、優秀なスタッフからも学ぶことがたくさんありました。

地域で信頼される「かかりつけ医」の姿を、徹底的に学びました

「お子さんからご高齢のお客さんまで、お一人おひとりの病状や気持ちに寄り添って、声をかけたり、接したりできるようになった」と、院長やスタッフから言われるようになりました。自分ではあまり自覚していませんでしたが、「おの耳鼻」で働かせていただくうち、地域で信頼される「かかりつけ医」の姿を、身につけることができたのだと思います。人間的にも成長できたと思っています。

「クリニックはスタッフ全員とつくる」という視点を持つことができました。

開業したら、専門職としての仕事に加え、経営やマネジメントも担うことは、多くの医師にとってストレスの要因になります。

人事や労務管理の経験や知識がほとんどないまま、行き当たりばったりで運営し、開業半年でスタッフ全員入れ替わってしまうクリニックも、少なくありません。

その最大の理由は、院長の人材マネジメントの能力不足です。

医師の多くは、開業するまで、人を雇用したり、スタッフの人間関係に心を砕いたりした経験が少ないからです。

「おの耳鼻」ではオープニングスタッフの多くが残っていることから、小野先生のマネジメント能力の高さがうかがえます。

どんなに忙しくても、誰に対しても笑顔で接する態度はまさに模範です。

私は「おの耳鼻」で、経営や人事労務管理についても学ぶことができたおかげで、開院当初から経営を軌道に乗せることができました。Googleの口コミでも4.5の高評価をいただけたのは、本当にうれしかったです。ここで培った経験や知識がないまま開院していたら、もっと苦勞していただろうと思います。



一 応募を検討されている医師へのメッセージをお願いします

近い将来開業を目指す医師にとって、理想的な職場です

開業を目指している医師が取るべきアクションは、流行っているクリニックで実際に働いて、うまくいっている秘訣を学び、吸収することです。見学してメモを取っているだけでは、クリニック運営の真髄は理解できません。しっかり報酬をいただいて責任を持って働くのと、部外者として見学するのでは、理解できることの質が全く異なります。スタッフとの距離感など、一緒に仕事をしてみないと見えないことがたくさんあるのです。

勤務時間だけでなく、勤務が終わった後も食事をしながら相談に乗ってくれた時間は、本当に楽しく、充実していました。院長が初めて有給を取る際に「院長代理」をさせていただいたことも、得難い経験でした。卒業するときに、院長やスタッフがプレゼントしてくれた、心のこもった寄せ書きや動画は、私の大切な宝物です。辛いことがあったときは、見返して元気をもらっています。

近い将来、耳鼻咽喉科のクリニックを開業したい医師にとって「おの耳鼻」は理想的な職場です。特に、現状に満足せず、より質の高い医療を追求したい意欲と向上心のある人には、とても学びの多い環境です。ぜひ、クリニックを訪ねて、小野先生やスタッフと実際に話したり、非常勤でも良いので、働いてみることを強くお勧めします。

常勤の先生へのインタビュー

ー 入職のきっかけを教えてください

ライフ・ワーク・バランスが整えられる理想的な職場だと思いました。

以前は大学病院で勤務医として働いていました。大学病院は知や情報が集約していて刺激的な環境でした。ですが一方で、身体的精神的負担も大きく、子どもが生まれたのを機に、ライフ・ワーク・バランスを整えたいと思うようになりました。

そんな時に小野先生をご紹介いただき、面談する機会を得ました。その時の優しい話し方が印象的で「患者さんにこんなふうに話すと上手にコミュニケーションを図れるのだろうか」と感じました。そして直感的に「この院長のもとで働きたい」と思いました。

トライアル勤務に訪れると、診療のシステム構築やスタッフ教育の水準の高さに驚きました。特に感動したのは、スタッフがインカムを活用して患者さんに対応しながら、お互いをサポートするチームワークの良さでした。コミュニケーションにも相手への思いやりが感じられ「自分もここでチームの一員として患者さんのお役に立ちたい」と心から思いました。また、勤務日数や時間帯、キャリアアップの方向性なども希望を尊重していただけて「家族との時間も大切にしながら医師としても成長していきたい」と考えていた私にとって、理想的な働き方ができると感じました。

ー 現在、どんな働き方をしていますか

週4日は勤務、週2日は自己研鑽にあてています。

現在は常勤で、週4日はクリニックに勤務し、週2日は研究日として自己研鑽にあてています。

勤務日は、主に外来診察や外来手術を担当していますが、どうしても人手が足りないときなどは必要に応じてそれ以外の業務も行います。例えば、平時は看護師やクラークが行うトリアージや診察前の感染症検査、患者さんの案内などです。今後もし開業するなら、クリニック業務の全体を把握できることは、とても貴重な経験だと思います。

研究日は、卒業した大学で論文を書いたり、特定の課題について集中的に勉強するなど自己研鑽にあてています。クリニックの休診日と併せて、平日に2日続けて休みが取れるので、県外の大学に往復して研究をするのに良いペースを保てています。

ー おの耳鼻咽喉科で働く魅力を教えてください

勤務時間の密度が高く、充実しています。

当院では、患者さんの顔をしっかりと見ながら話を聞いたり、所見をとったりと、医師にしかできない業務に集中できる仕組みが構築されています。カルテの記入や検査の説明など、ベシユライバーさんや看護師さんのサポート体制が非常に優れているのです。そのため、今まで自分が経験してきたペースより大分早いペースで診療ができています。それでも、患者さんに診療時間が短いと感じさせたり、不安なまま帰すことはありません。そういった意味で、勤務時間の密度が高いと感じています。

クリニックは、大病院に比べて患者さんが通院するハードルが低く、気軽に来てくれるため、お一人おひとりの経過や変化を細かく見守りながら向き合うことができます。同じ患者さんと継続的に関わることで、患者さんの体質や持っている常在菌の特徴、薬の効き方の違いなどがわかってくるので、医学的な推測もしやすくなり、診療の精度も向上します。「病気」より「患者さん」に向き合っている感覚が持て、毎日がとても充実しています。

院長や非常勤のドクターと情報交換できる環境も魅力です。

おの耳鼻咽喉科には、常勤医として院長と私、他に非常勤の医師が3名います。スポット勤務の医師も多数いるので、他の病院での経験や情報を共有したり、相談し合ったりできるのが魅力です。

入職前、大学病院のような環境から離れると、視野が狭くなるのではないかという不安がありました。しかし、ここは院長の方針で多くの医師が勤務しているため、「医局」のように情報交換ができ、クリニックでありながら、大病院の良いところも同時に兼ね備えた環境だと感じています。

また、院長は非常に勉強熱心で、耳鼻科だけでなく様々な診療科の先生方と定期的に勉強会をされており、院長から学ぶことのできる環境は非常に価値あるものだと思います。

さらに、本音で意見を言い合える理想的な環境があり、院長は話をよく聞いた上でフィードバックしてくださるので、一つひとつの助言がとても的確です。医療現場でのヒヤリハットの多くは、些細な意見の食い違いや「報告・連絡・相談（ホウレンソウ）」の不足から起こります。ですから、日頃のコミュニケーションの良さが、診療の質を高いレベルに保つことにつながっていると感じています。

かかりつけ医・総合医的な関わりにやりがいを感じています。

大病院とクリニックでは機能や役割、日常的に診療する病気が違います。クリニックには、耳鼻科的愁訴だけではなく、さまざまな症状の方が来院するので、初期症状で診断するのはかえって難しいこともあります。だからこそやりがいを感じています。

一方で、風邪やインフルエンザなどのcommon diseaseの診療の精度を上げるためには、これまで培ってきた耳鼻咽喉科の専門スキルが活かれます。同時に、元々救急医療や診断学に興味を持っていたこともあり、かかりつけ医・総合医的な関わりができることに、新たなやりがいを感じています。

ー 成長できたと思われる部分はどこですか？

患者さんにとっての最適解を考えるようになりました。

医学的な模範解答を押さえた上で、常に目の前の患者さんにとっての最適解を考える大切さを、院長から学ばせていただいています。基本的に医師は、医学書に書いてあることや学会の標準治療、指導医に指示されたことを確実に実践することが正しいと考えがちです。しかし院長は、医学的根拠に基づいた治療を踏まえた上で患者さんの気持ちに寄り添いながら治療することの大切さや、患者さんの視点から見たら別の解決策があることを常に示してくださいます。私も教科書や医師の視点からみた正解だけではなく、患者さんにとっての最適解を考えるようになりました。



ー 今後の目標を教えてください。

認定医資格をとり、臨床医としてスキルアップを図りたい。

今後は「補聴器相談医」や「めまい相談医」など、クリニックの診療に直接関わる認定医資格をとって、臨床医としてさらなるスキルアップを図りたいです。以前は時間の制約があって諦めざるを得ない状況もありましたが、今は資格の取得に必要な研修を受ける時間も取れるようになりました。集中的に勉強して知識をアップデートすることで、患者さんの不安を軽減したり、より適切な提案ができるようになりたいと思っています。

そして今後も、患者さんの満足度をより高められる関わり方を模索していきたいです。

ー 応募を検討されている人へのメッセージをお願いします。

とにかく一度見学に来て、話を聞いてみてください。

一般的にはキャリアチェンジといえば開業一択であり、もしかしたらクリニックへのキャリアチェンジを考える医師は少ないかもしれません。しかし、クリニックでは大病院、市中病院で培ってきた専門性を活かせる場面は多く、熱意次第で研究も十分続けられます。同時に、限られた資源を最大限活かす効率的なシステム構築や経営センスを磨ける魅力的な現場でもあります。

私はここへ来て、家族との時間を確保できただけでなく、十分な年収をいただいております。また、医師としてやりたいことに挑戦することもできています。

小野先生は素晴らしいクリニックを作っているしやるので、納得のいく新しい働き方を探している先生は、ぜひ一度見学に来て、話を聞いてみてください。

掛川ってどんなところ？



静岡県の西部に位置し、県の2大都市（静岡市と浜松市）の中間に位置、中東遠地区の中核的存在のまちです。
1年を通じての平均気温は17℃前後、年間降水量は約2,000mm、温暖な気候です。

名産は何といっても掛川茶！歴史的にも掛川城や旧街道など見どころ満載です！

掛川市の属する遠州地方には、「ようし！やろうぜ」「やってやろう」という意味の「やらまいか」精神が浸透しておりその精神がヤマハやホンダなど多くの起業家を生みました。

古来より東西の往来の要所にあり、文化をいち早く吸収する「先取り精神」に富んでいたといわれています。



東京からのアクセス抜群！

● 新幹線で！

東海道新幹線（こだま）で東京駅約1時間50分
名古屋駅約1時間

【朝】東京6：56発の新幹線で掛川8：37着！
宿泊もご相談ください 残業なし定時切り上げもOK！
先生のライフスタイルを尊重いたします。

【夜】18：30 終了→掛川19：05乗車→東京20：40着

● 車で！

東京ICから東名高速道路（掛川IC）または新東名高速道路（森掛川IC）約2時間40分
名古屋ICから東名高速道路（掛川IC）または新東名高速道路（森掛川IC）約1時間30分





掛川城御殿



松葉の滝



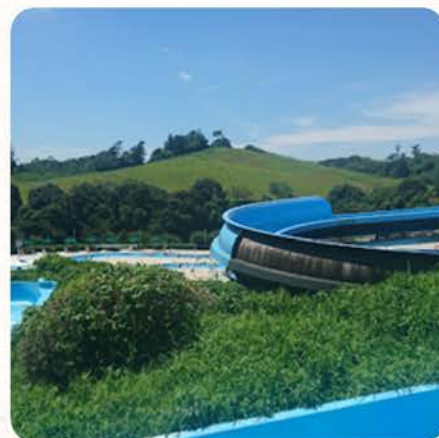
加茂荘花鳥園

子育てしやすい街

豊かな自然に囲まれながら、のびのびと子育てができる街です。大型遊具がある「22世紀の丘公園」や、夏を満喫できる「つま恋彩の郷 ウォーターパーク」など、子どもが元気に遊べる環境が整っています。

子育て支援センターや児童館・児童交流館などの施設が充実しており、子育ての相談ができるのも魅力。

掛川市を含む静岡県では、最大100万円（単身60万円）の移住・就業支援金を支給する「移住・就業支援金制度」を実施しています。さらに小学生以下のお子様がいる方は「子育て世代向け認定住宅補助制度」を活用すれば認定された戸建て住宅を新築・購入・改築した人に最大35万円が支給される移住スタートには嬉しいサポートもたくさん。



つま恋 彩の郷 ウォーターパーク

静岡県内の進学校

自然も多く、おおらかにのびのびとした環境で育つ静岡県の子供たちですが、以下の3校は偏差値65～70と教育レベルも高い中で有名スポーツ選手や多くの著名人を輩出する文武両道の精神を兼ね備えた優秀な学校です。



静岡高等学校



浜松北高等学校



掛川西高校



医療法人社団 優愛会

おの耳鼻咽喉科



Rakusai RPO担当者

前田 啓(マエダ ケイ)

MOBILE : 080-3204-9046

E-mail : rpo@mstage-corp.jp